

陳 述 書

2014年3月17日

那覇地方裁判所 御中

住 所 沖縄県沖縄市字古謝 1166
 氏 名 前川 盛治 (印)

新種・貴重種関係、サンゴ関係の問題につき、以下のとおり陳述します。

第1 準備書面(1)及び(15)新種・貴重種 関係

- 1 変更前の環境アセスメント後に発見された、新種、日本新記録種、貴重種、環境影響評価書未掲載種についての、事業者の対応、本件変更手続きにおいて添付された「環境保全に関し講じる措置を記載した図書」における対応は、極めて不十分です。
- 2 変更前の環境影響評価書(以下「平成12年3月アセス書」という。)に未記載の種90種を、①平成15年度中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会第2回委員会資料(甲C34)及び②平成21年度第2回環境監視委員会資料(甲C35)において、事業者は沖縄県知事に報告しています。
 これら90種につき、整理すると別紙「平成12年3月アセス書未記載種 90種 整理表」のとおりです。
- 3 平成12年3月アセス書に未記載で、上記①、②の資料にも記載がなく、事業者が確認していない種が7種、埋立地及びその近傍に生息しています。
 これら7種につき、整理すると、別紙「平成12年3月アセス書未記載種 7種 整理表」のとおりです。
- 4 平成12年3月アセス書に未記載で、上記①、②の資料にも記載がなく、事業者が確認しているが、保全措置がとられていない種が10種、埋立地及びその近傍に生息しています。
 これら10種につき、整理すると、別紙「平成12年3月アセス書未記載種 10種 整理表」のとおりです。
- 5 上記2～4の種の保全についての事業者の対応は、平成12年3月アセス書での約束(県知事意見に対する事業者の見解)に違反する内容となっています。
 - 1) 平成12年3月アセス書で、事業者は、「工事中に天然記念物指定種や「レッドデータブック」、「レッドリスト」等の掲載種、その他貴重種・重要種に相当する種で、環境影響評価書に記載されている動植物種以外の種の存在が埋立てに関する工事の施工区域内若しくはその近傍で確認された場合には、関係機関へ報告するとともに十分調整を図り、その保全に必要な措置を適切に講じます。」としています(甲C11:環境影響評価書(平成12年3月)、10-14頁)。
 - 2) 平成17年度までは、平成12年3月アセス書に未記載の種が確認された場合、事業者は上記の約束にしたがって、極めて不十分ながら一定の対応(その種につい

ての調査、捕獲・移動など保全についての一定の対応)をとってきました。

- 3) しかし、その後平成18年3月28日付の「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)」への対応について(甲C72)で、平成12年3月アセス書での前述事業者の見解が修正・改悪されました。

上記で示された事業者の考え方は、「事業者としては、事業の実施にあたって環境影響評価書を作成し、埋立予定地内の環境は喪失することになるが、埋立予定地以外の環境に対して極力工事の影響を少なくし、埋立予定地以外の環境を保全していくものと考えている。」(甲C72)というものです。

上記によれば、「埋立予定地内」の種は「喪失」して保全されないことになってしまいます。

- 6 本件変更許可申請、変更承認申請の際に提出された「環境保全に関し講じる措置を記載した図書」には、上記2～4の新種・貴重種への対応(調査、予測、評価)はごく一部の種を除き、その大部分が記載されていません。

第2 準備書面(11)及び(24)サンゴ 関係

- 1 平成12年3月アセス書に記載のある、サンゴの調査結果は、沖縄県土木部が平成8年度に実施した「中城湾港泡瀬地区におけるサンゴ類の分布状況」についての調査であり(甲C11:環境影響評価書5-413頁)、1998年(平成10年)から始まった環境影響評価手続の中で実施された調査ではありません。
- 2 事業者は、環境影響評価手続開始よりも2年も前に実施された、上記平成8年度のデータをそのまま使い、平成12年3月アセス書にそのまま記載をしているのです。
- 3 その結果、事業者は、平成8年度の調査結果に基づき、埋立計画地内のサンゴの被度は10%未満とし、消失をやむを得ないものとして是認し、保全の対象外としています。
- 4 ところが、事業者が実施した平成17年、19年及び20年度の調査では、埋立計画地内においても、10%を超えるような被度が記録されています。
- また、平成17年4月に実施された「泡瀬干潟を守る連絡会」等の調査結果では、第I区域内において10m×10mの枠内調査でリュウキュウキッカサンゴ被度30%、スギノキミドリイシ被度50%が確認されています(甲C63:平成17年度中城湾港泡瀬地区環境監視委員会第1回委員会資料)。
- 5 そして、何故か、本件変更許可申請、変更承認申請の際に提出された「環境保全に関し講じる措置を記載した図書」には、上記4のとおり、第I区域内にて確認された10%を超えるような被度のサンゴについての記載は一切存在しません(甲A6:2-82頁、3-62～64頁)。
- さらに、甲A6の「環境保全に関し講じる措置を記載した図書」においては、2000年(平成12年)の環境影響評価書でとられていた
- ア 「サンゴ類(生息被度10%以上の区域)を評価対象とした。」
- イ 「価値レベルについては、サンゴ類(生息被度10%以上の区域)は、分布状況や被度の状況を考慮し、市町村的価値を当てはめて評価する。」
- との評価の基準についての記載すら存在しません。

6 なお、上記のように確認されたサンゴについては、平成20年10月・11月、平成21年6月、と2回の移植が実施されています。

当該移植については、沖縄市が、「事業が進む第I区域内のサンゴにつきましては、本事業によりやむを得ず消失してしまうサンゴについて、その保全及び有効活用の観点から実行可能な範囲でNPOや国・県、そして漁協等をはじめとする関係企業の全面的な協力の下、昨年10月30日と11月1日の2日間実施したところでございます。移植にあたっては、沖縄県より特別採補許可を得て実施しました。」などと報告しているところです（甲C65）。

このように、国、沖縄県、沖縄市において、特別の保全の必要性を認めているサンゴであるにもかかわらず、前述のとおり、本件変更許可申請、変更承認申請の際に提出された「環境保全に関し講じる措置を記載した図書」には、第I区域内にて確認された10%を超えるような被度のサンゴについての記載は一切存在しないのです（甲A6：2-82頁、3-62～64頁）。

以上

別紙 「平成12年3月アセス書未記載種 90種 整理表」

下記(1)、(2)の合計90種

- (1) 平成15年度中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会第2回委員会資料
「貴重種・重要種に相当する種で、『中城湾港（泡瀬地区）公有水面埋立事業に係る環境影響評価書（平成12年3月）』に記載されている動植物以外の種の存在等について（報告）」で報告された種（甲C34）

平成12年3月アセス書未記載種 合計11種

鳥類(4種)	甲殻類(5種)	海藻草類(1種)	その他(貝類、1種)
クロツラヘラサギ	カノコセビロガニ	ホソエガサ	イボアヤカワニナ
ハヤブサ	ハサミシャコエビ		
ホウロクシギ	ヤマトウシオグモ		
カワセミ	トゲアシヒライソガニ モドキ		
	ヒラモクズガニ		

- (2) 平成21年度第2回環境監視委員会資料「平成21年度の調査における希少な動植物の出現状況」で報告された種（甲C35）

平成12年3月アセス書未掲載種 合計79種

鳥類(11種)	甲殻類(3種)	魚類(2種)	その他(1種)
カラシラサギ	オキナワヤワラガニ	オキナワキチヌ	シラヒゲウニ
ヘラサギ	コムラサキオカヤドカリ	ドロクイ	
クロツラヘラサギ	オオナキオカヤドカリ		
ツクシガモ			
ハヤブサ			

ヒクイナ			
ホウロクシギ			
ベニアジサシ			
エリグロアジサシ			
カワセミ			
サンショウクイ			
貝類(62種)			
ツボミガイ	(貝類の続き)		
イシマキガイ	ハスメザクラガイ		
イボアヤカワニナ	ハートガイ		
ネジヒダカワニナ	ヒラザクラガイ		
カワアイガイ	ニッコウガイ		
コテツノブエガイ	イレズミザルガイ		
カヤノミカニモリガイ	ヒラセザクラガイ		
ネジマキガイ	ハスメヨシガイ		
オハグロガイ	ユニッコウガイ		
ヨウラクレイシガイダマシ	ナミノコガイ		
カニノテムシロガイ	イチョウシラトリガイ		
ニライカナイゴウナ	シレナシジミ		
ドロアワモチ	トモシラオガイ		
ヒメリュウキュウアサリ	オイノカガミガイ		
ウラシマミミガイ	オキシジミ		
シイノミミガイ	フキアゲアサリ		
チビハマシイノミガイ	ヤエヤマスダレ		
リュウキュウサルボウガイ	アダライオウハマグリ(マダライ		

	オウハマグリ(の記載ミスか)		
ソメワケグリガイ	ユウカゲハマグリ		
ウチワガイ	リュウキュウアサリ		
サザナミマクラガイ	オキナガイ		
ホソスジヒバリガイ	チリメンカノコアサリ		
ハボウキガイ	コハクオカミミガイ		
アコヤガイ	シマカノコガイ		
カブラツキガイ	マスオガイ		
オサガニヤドリガイ	ハナグモリガイ		
ユキノミガイ	イロタマビキ		
オキナワヒシガイ	ヒロクチカノコ		
カワラガイ	オミナエシハマグリ		
ユキガイ	ヘソアキコミミガイ		
(貝類、右の欄に続く)	ヌノメハマシイノミガイ		
	ミノムシガイ		
	ヒラマキアマオブネ		
	(貝類、以上)		

別紙 「平成12年3月アセス書未記載種 7種 整理表」

上記別紙「平成12年3月アセス書未記載種 90種 整理表」(1)、(2)で報告されていない種で、事業者が確認していない種(保全措置が取られていない種) 7種

番号	アセス書に記載されていない種	発見場所	確認された年	貴重種の分類	事業者の措置
1	ユンタクシヅミ(貝)	近傍	2004年	新種、学会	事業者は発見できず。保全措置なし。
2	カラクサモク(海藻)	1区工事区 域内	2004年	新種、学会	事業者はヤツマタモクであるとして、貴重種の認定はなし。
3	オキナワホガタウロコムシ(環形動物)	近傍	2008年	日本新記録種	事業者発見できず、見解なし。
4	テングノハウチワ	近傍	2004年	絶滅危惧Ⅱ類	事業者未確認
5	コバモク	近傍	2001年	絶滅危惧Ⅱ類	事業者未確認
6	フジイロハマグリ	1区工事区 域内	2005年、2012年	絶滅危惧Ⅱ類	事業者未確認
7	ザンノナミダ(貝)	近傍	2007年	新種、学会	事業者未確認

別紙 「平成12年3月アセス書未記載種 10種 整理表」

上記別紙「平成12年3月アセス書未記載種 90種 整理表」(1)、(2)で報告されていない種で、事業者が確認しているが、保全措置が取られていない種 10種

番号	アセス書に記載されていない種	発見場所	確認された年	貴重種の分類	事業者の措置(調査結果)
1	ホノウミヒルモ(海草)	1区工事区域内	2005年	新種、学会	工事区域外にも生息。事業者は新種としていたが、その後取り消している。
2	アワセヒガタツバサゴカイ(ゴカイ)	近傍	2009年	新種、学会	工事区域外として保全措置なし。
3	リュウキュウズタ(海藻)	1区工事区域内	2003年	新種、学会	工事区域外にも生息。区域内は保全措置なし。
4	ミル属の1種(海藻)	近傍	2006年	新種	工事区域外として保全措置なし。
5	ジャングサマテガイ(貝)	1区工事区域内	2005年	日本新記録種	工事区域外にも生息、区域内は保全措置なし。
6	オオウミヒルモ(海草)	近傍	2005年	日本新記録種	工事区域外として保全措置なし。
7	ヒメウミヒルモ(海草)	近傍	2005年	日本新記録種	工事区域外として保全措置なし。

8	オサガニヤドリガイ(貝)	1区工事区 域内	2004年	日本新記 録種	一部採取して区 域外に移動(651 個体)
9	カサノリ	1区工事区 域内、近傍	2002年	準絶滅危 惧種(NT)	保全措置なし。
10	ヒメメナガオサガニ(カニ)	1区工事区 域内	2006年	新種、学会	工事区域外にも 生息、区域内は 保全措置なし。